

株式会社三栄プラスチック工業所

新市場参入と需要家ニーズに応えるための特殊加工設備導入

近年増加しているカット野菜市場への包装フィルム参入と、容器から袋へのコストダウン化のニーズに応えるために、チャック取り付けと取って折り返しが可能な特殊加工設備を導入する。

事業取り組みの経緯

●株式会社三栄プラスチック工業所の特徴

昭和40年1月に農業用生産資材の加工を主業として創業、昭和41年5月に法人化した。

昭和60年11月に松山市府中(旧・北条地区)の現本社地へ移転、農産用出荷資材の加工をスタートし、平成4年に工場を増設、平成26年には本社隣接の新工場を新設して、現在の生産体制を確立した。

扱い品はOPPフィルム及び袋類や、糊付ロール・自動包装機用ロール・スタンドバック・一般袋・有孔加工付袋・テープ袋など、農産物用や雑貨用を中心とした包装資材類の扱いを主体としており、工場設備に関しては、各種の製袋設備類・グラビア印刷設備・スリッター設備など逐次印刷・製袋機器類の更新・増強を行い、生産体制の充実強化を図ってきた。

●当社を取り巻く環境について

営業面に関しては、設立当初はビニールなどの農業用生産資材の加工を主としていたが、昭和60年頃からは農産用出荷資材の加工に注力し始め、全国各地の商社・問屋経由での取引を確保して、現在の業容に至っている。また平成22年には東京営業所を開設し、さらなる業務拡大に取り組んでいるため、これまで以上に顧客ニーズに対応した製品づくりが重要となってきている。

●設備投資の状況

旧来の工場(松山市)が手狭になったことから、昭和60年11月に本社工場を現在地(旧・北条地区)へ移転、広大な工場敷地を確保し、平成4年に工場を増築、平成26年には、本社工場隣接にてクリーンルームを備えた新工場を新築、それに合わせてものづくり補助金制度を利用して、表題の事業テーマに伴う新たな製袋機器類の開発のため、機械設備投資(30百万円内外)を行い、その内約10百万円の補助を受けた。

●製造上の課題

近年の農産包装業界は、健康志向によるサラダ類を中心とした野菜ニーズの定着、核家族化・共働き世帯の増加などを背景とした、食の簡便化傾向に伴い、スーパーなどの袋詰めの形態も変わりつつあり、単なる袋から、そのまま保存できる袋、重量物を運びやすい袋などのニーズが高まっている。

この様な状況の中で、カット野菜市場の拡大が著しいが、同市場への参入には、無洗浄での利用に伴う高度で衛生的な品質管理や、陳列の際に目を引く華やかな多色印刷、小分け使用を可能とするためのチャック付袋などへの対応が不可欠となっていた。

既述した平成26年の新工場建設は高度な水準の製品要求に対応するためのものであり、これによりチャック付袋や取っ手折り返し加工が可能となった。

実施内容

●チャック付袋対応に関して

新工場建設により課題の一つであった、袋入商品が無洗浄で食することに対応して、クリーンルームを新設しており、高度な品質管理が可能となっている。

これをベースに、チャック付袋対応としては、従来の工程(シート状フィルムを半折し、溶断して袋を形成する)を、(1. シート状態のフィルムにチャックの凹、凸をそれぞれに熱シールで貼り付け、2. チャックの両端を熱で押さえ固定)の2工程が追加となり、特に2の工程では溶断後の穴あき防止のための高い位置精度と、チャックを固定しつつフィルムを溶かささない、狭い範囲での温度制御が求められる。

これらの工程を備えた高精度の機械導入によりチャック付袋の製造が可能となった。



【チャック取付部分図】

●重量物用の取っ手袋対応に関して

フィルム強度アップ対策の一つとして、現在一部ではラミネート加工した二重フィルム製品が流通している。強度測定器にて測定したところ、従来の倍以上の強度があることが判明した。

しかし、製品コストが大幅に上がるマイナス面があり、課題となっていたもので、取っ手部分の強度不足に着目し、取っ手部分のみを二重にすることで強度アップと製品コストアップ抑制の両立を図った。



【ローラー外のフィルムをレール内に折り返す】

これまでは折り返し時にしわが入ることや、折り返し部の厚みが増すことで製袋加工機上で蛇行する問題があった。

しかし、今回の機械設備導入による張力制御精度向上と工程別の張力制御が可能になったことで、高品質の二重取っ手製品の製造が可能となった。

事業取り組みの成果

●チャック付袋



【JA全農京都の「京夏ずきん」(枝豆)を入れるチャック付袋】

元々、顧客要望により、チャック付袋の事業をスタートした経緯もあり、今回の設備投資によるニーズ対応の結果、商品化がスムーズに進み、正規商品化から拡販の段階へ進捗している。

●重量物用取っ手付き袋



【重量物用の取っ手付き袋（サンプル）】

既に汎用的な製品サンプルが完成、正規の注文は確定していないが、商談中1件を含め、複数件の案件が進行中にあり、引き続き販売促進に努め拡販に繋げたい。

今後の活動予定

●チャック付袋

平成27年6月～7月頃に数量僅かだが正規注文が入り、引き続き取引先にサンプルを送付して販売促進し、平成28年に入ってJA全農京都より写真掲載の「京夏ずきん」(枝豆袋)の正規商品化となった。

これらチャック付袋関連商品を合わせ、今後3年間で売上貢献が全体の10%程度の確保を目標に、引き続き販売促進に努めていく。

●重量物用の取っ手付き袋

現在サンプルを用いて販売促進中で、平成28年中に正規採用1～2件を見込んでおり、平成29年に入って更に積極的な拡販に努め、正規販売ルートを拡大していく予定。

全体としての業況(売上)も微増収傾向と聞かれるが、今回の顧客ニーズに対応した商品造りで新規案件を創造し、顧客確保や業容の維持・拡大、更には雇用の確保・拡大に繋げた地域に貢献する企業活動を促進していく。

株式会社三栄プラスチック工業所

- 代表者／代表取締役 松岡 司
- 本社住所／愛媛県松山市府中661-1
- URL／www.sanei-pla.jp/
- TEL／089-992-0036 ■FAX／089-993-0800
- 設立年月日／昭和41年5月2日
- 資本金額／1,500万円
- 従業員数／57名
- 業 種／プラスチック製品製造業
- 工 場／本社工場

企業概要

昭和40年1月に個人創業、昭和41年5月株式会社三栄プラスチック工業所として法人改組、昭和60年11月松山市清住から松山市府中661-1(現在地)へ移転、平成2年頃に松岡司氏が代表取締役役に就任して、今日に至る。

主要取引先

エフピコチューパ株式会社、第一包装株式会社、株式会社宏栄他

主力商品



各種製袋製品 ↑

顧客ニーズに対応した、各種の製袋製品を製造。

細かいニーズに対応したオーダーメイド製品製造が可能。



自動包装用ロール ↑

自動包装用ロールも主力商品であり、これも顧客ニーズへの対応力で販売ルートを確保している。

主な設備

- ・サイドシール製袋機・グラビア印刷機・スリッター機・糊付加工機
- ・その他

担当者	統括部長 松岡 彬
連絡先	089-992-0036
連絡先E-mail	a-matsuoka@sanei-pla.jp